<夢中人>

岩崎 和広さんが献上米農家に選出されました！

岩崎和広さんはパナソニック（旧PED㈱岐阜工場）を平成9年3月に早期退職されて地元の岐阜県揖斐郡大野町で、家業の農業に専念されておられます。
現在は16町歩（48,000坪、東京ドーム4個ほど）の農地で水稲生産を一人で営んでおられこの度、令和4年11月23日に皇居で行われた新嘗祭に岩崎さんが丹精込めて育てた新米「ハツシモ」が選ばれました。

新嘗祭は、毎年秋に皇居で執り行われる宮中行事で、天皇がその年の新穀を神前に供え、自らも食し収穫に感謝する催事です。
10月21日、岩崎さんは大野町役場を訪れ、宮内庁への献穀米の箱詰、発送作業を実施し町長へ報告しました。
刈り取ったハツシモは精米後に選別され献上箱に詰められ宮内庁へ納められました。
岩崎さんは「米農家としてとても名誉なこと。高品質の米を作らなければと緊張しましたが自信をもって献上できる米ができました」と話しておられました。

献上される新穀を持つ 町長と岩崎さん（右）

献穀米箱詰・発送作業　　令和4年10月21日（金）大野町役場にて

【霧箱】

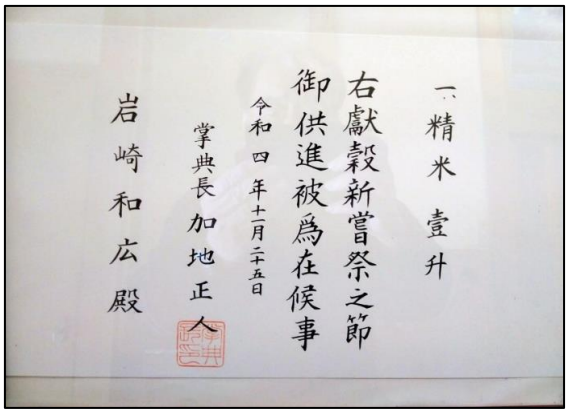
【霧箱裏書】

【献穀量一升】

令和4年12月23日（金）岩崎さん宅へお伺いし、宮内庁から贈呈された書状などを拝見しながら、お話をお聞きしてきました。今年もコロナ禍での新嘗祭でしたので皇居へ行くことは叶いませんでしたが、献穀米、一升を納めるにあたり二升の米をJAや県職員などの方々と一粒ずつ、全数検査実施などご苦労も多々あったようです。振り返れば宮中行事に携わることができ、大変名誉なことだとお話しされました。

今後も、お一人で16町歩の面積の農業は苦労が絶えないけれど、知人の力添えのもとで頑張っていくとの力強いお言葉でした。

宮内庁掌典長からの書状


一、精米 壹升
右獻穀新嘗祭之節
御供進被爲在候事
令和四年十一月二十五日
掌典長 加地正人
岩崎和広殿

贈呈された記念品

取材、報告　：　山田 昇

（担当支部役員：宇佐見 真夕美）